

岩手県における 英語教育の取組

英語教育の在り方に関する有識者会議（第5回）資料
平成26年6月18日（水） 文部科学省

岩手県教育委員会

寒河江 和広

CAN-DOリストの形での学習到達目標 作成まで

- 2009年：CAN-DOリスト作成の検討開始
- 2010年：CAN-DOリストの作成開始
- 2011年：CAN-DOリストの点検・修正開始
- 2012年：「CAN-DOリストに基づいた言語活動実践例」作成。中学校においてもCAN-DOリストの作成開始
- 2013年：中・高でCAN-DOリスト形式の学習到達目標の共有を模索

岩手県版CAN-DOリストにおける特徴

- 県内公立高64校を（24校・24校・16校）に分け、3年計画で実施
- CAN-DOリスト作成のための教員研修会開催
- 参考としての「県版CAN-DOリスト」の作成
- 学校訪問で各校が作成したCAN-DOリストの点検・修正
- 「CAN-DOリストに基づく言語活動実践例（DVD付）」の作成
- 公開授業の指導案にはCAN-DOリストを添付

CAN-DO List A (主に大学進学を希望する生徒用)

2学年

達成度

<育てたい生徒像>	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、自ら積極的にコミュニケーションを図ろうと努力する生徒。また、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を身につけた生徒。		
<具体的な到達目標>	1年次までに習得した英語の知恵を生かしながら相手の伝えたいことを理解し、適切な表現を使いながら自分の意見を伝えることができる。■外的試験による到達目標目安：(例)英検準2級合格 90% GTEC Grade4 90%		
技能	Listening	事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。	
		自然なスピードで語られる120～140語程度の英文を、数回聞けば、その使用状況や概要をおおむね理解できる。	
		教室内で用いられる英語は、自然なスピードで語られてもほぼ理解でき、即座に行動に移すことができる。	
	Reading	説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方ができる。	
		パラグラフの概要を短時間で理解できるとともに、パラグラフ相互の関係も理解することができる。 (目安:110WPM)	
		やや長めの物語やエッセイを辞書を頻繁に引かなくても、ある程度未知語を推測しながら全体を読み通し、あらすじや要点を理解することができる。 説明文や評論などの論理的な英文を、文章の構成や筆者の主張、図表との関連に注意しながら内容を適切に理解できる。	

CAN-DOリスト作成による変化

- **授業の目標が明確化**（技能習得型ゴール）
 - 外国語科の実践が他教科にも好影響
- **定期考査が変化**
 - 実技テスト（パフォーマンステスト）の増加（62/64校 2013調査）
 - 初見の英文を用いた出題が増加
- 生徒の英語による**言語活動主体の授業が増加**
 - ペア・ワークやグループ・ワークの増加
 - 発表場面の増加

言語活動中心の授業に向けての取組

- **指導主事による学校訪問指導**
 - 各校の実情に合わせて助言
- **「授業は英語で行うこと」の誤解解消**
 - 生徒の英語による発話を引き出すために
 - 教師が生徒を過小評価しないように
 - 100/127（「コミュニケーション英語Ⅰ」2013調査）
- **言語活動を通じて行う文法指導**
 - 教科書「で」教える「英語表現Ⅰ・Ⅱ」

最近の授業を見ると…

- 英語の授業は英語で
- 日常的にペア・ワーク
- ストップウォッチで活動時間を管理
- 文法訳読式授業の自然消滅
- 授業ディベートの導入



まだ解決が必要な課題

- 「活動あって学びなし」の言語活動が散見
- 「答え合わせ中心」のプリント授業
- 「指示の英語」だけの英語による授業
- CAN-DOリスト達成に特化したトレーニング授業
- 「英語表現Ⅰ・Ⅱ」に工夫ある授業が少ない
- 「大学入試対策」への思い込み
- 「不安」が「不満」になるベテラン教員